

緑区支え合いのまち推進計画の取組状況（令和５年度）及び計画（令和６年度）等調査票

団体名 誉田地区部会

※【達成状況の目安】 S：目標を上回った。/ A：概ね目標を達成した。（8～10割）/ B：一部目標を達成した。（5～7割）/ C：大きく目標を下回った。（～4割）

取組項目 ※第5期計画の 20の具体的な取組番号と取組名	取組の概要	R5年度取組状況 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	R5年度 達成状況 ※S/A/B/C	R6年度計画 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	今後の課題
4 障害者（児）・その家族が集う場の開設・拡充・情報提供 (重点取組項目)	現在、地区部会で行っている障がい者施設への慰問訪問、施設行事への参加等の中で、障がい者（児）・その家族の状況を把握し、必要としている情報や関係機関を紹介する。 また、障がい者（児）を介護する家族が交流できる場や地域住民と交流する機会を設け、その家族を支援する体制づくりに努める。	6/17 打合せ（12名参加） 年度事業計画の討議、確認 7/15 打合せ（10名参加） 障がい者施設の行事のお手伝い及び参加については、各施設よりコロナ感染状況から規模縮小実施のため、お手伝い等不要の返事が届いているので今年度は行わないこととした。 11/4 ボランティア委員会開催の講座「シニアサインの講義と実技」に参加（参加者31名のうち障がい者福祉委員会より9名参加） 12/1 障がい者施設の見学、慰問の実施 2施設へ参加者11名 各施設の責任者より説明を受けたのち、施設内での作業、活動状況を見学する。 2/1 障がい者施設への慰問品贈呈を実施 3施設へ参加者14名を2グループに分けて各施設を訪問した。	B	・障がい者、障がい者施設等に関する講座、学習会の開催 ・障がい者施設の見学、慰問の実施 ・障がい者施設の行事手伝い及び参加 ・障がい者施設への慰問品の贈呈	障がい者（児）が「集う場の開設」については、緑区地域福祉計画に沿った計画であり、今後の課題とする。
16 見守り活動の推進 (重点取組項目)	令和4年度現在、当地区部会地域内における見守り活動団体は3団体（内1団体は休止中）であるが、これを毎年1団体以上増やしていく。	高齢者福祉委員会を4回開催（5年6月・9月・12月・6年3月） 今年度、見守り活動団体の新設はなかった。	C	見守り活動未実施の23町内自治会へ活動の必要性を呼びかけ、新たな地域での活動を推進していく。	

緑区支え合いのまち推進計画の取組状況（令和５年度）及び計画（令和６年度）等調査票

団体名 誉田地区町内自治会連絡協議会

※【達成状況の目安】Ｓ：目標を上回った。／ Ａ：概ね目標を達成した。（８～１０割）／ Ｂ：一部目標を達成した。（５～７割）／ Ｃ：大きく目標を下回った。（～４割）

取組項目 ※第５期計画の ２０の具体的な取組番号と取組名	取組の概要	Ｒ５年度取組状況 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	Ｒ５年度 達成状況 ※Ｓ/Ａ/Ｂ/Ｃ	Ｒ６年度計画 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	今後の課題
１ 情報の収集と共有化	１ 住民が地域でどのようなふれあいの機会を作るか	１ 誉田地区連代表者１２名が毎月１回及び２６地区町内自治会正副会長会議年５回、また、各町内会において組長会議で共有化	Ａ	１ 毎月第２土曜日午後誉田公民館にて開く。但し９月から公民館工事で誉田二丁目自治会館 千葉市、緑区その他機関の伝達事項や各学校での行事、町内会の連絡事項等協議	・役員の高齢化（但し高田ニュータウンが６４０世帯が加入）して次の担い手の育成が急務 ・誉田町内自治会連絡協議会正副会長会議に各団体に声掛けして協力要請の説明に来てもらい新しい事に取り組む（案）募集 ・大きな町内会は行事やサロン増出来るが小さな町内会は集合住宅は難しい。昔は餅つきやそば打ちもやっていた。どう復活できるか
２ 子ども達の集いの場の提供・情報提供、地域と学校との交流	２ 子ども会や親父の会を通して行事に参加	２ 毎年行っている子ども会かかし作りや、スポーツ大会、元旦マラソン、昔遊び等	Ａ	２ 子ども会が主催するスポーツ大会やかかし作り、元旦マラソンに加え健康作り、学校での放課後教室での昔遊びや物作り	
３ 高齢者が集う場の開設・拡充・情報提供（重点取組項目）	３ ふれあいいきいきサロン拡大・スポーツの活用	３ 誉田一丁目がそば打ちや腹話術を２か月に一度、平川町が宝善寺でいきいきサロン、誉田二丁目はいきいきサロン盆踊り、誉田三丁目も敬老会と一日バス旅行等	Ｂ	３ 誉田一丁目のそば打ちや腹話術は芸能人を呼び会館で実施。二丁目さんは夏祭りやいきいきサロン増設、高齢者カフェー、三丁目も敬老会以外に焼き肉（バーベキュー）等	
４ 障害者（児）・その家族が集う場の開設・拡充・情報提供	４ 障害者施設への協力と慰問 家庭の継り	４ いきいきサロンの増設、高田町会館の開放	Ａ	４ 高田町会館の開放でからおけ、高田分桜祭り	４ 若人をどう取り込み共に考えて行けるのか
５ 子育て中の親や子どもが集う場の開設・拡充	５ 保健福祉センターとあんしんケアセンターと提携	５ 小学校の放課後教室もその一つに	Ｃ	５ 在校生は参加できるが、幼児は難しい	５ 公園以外適当な場所なく自治会館も考える
６ 地域の行事への積極的参加の呼びかけ、文化の伝承	６ 地域住民一体となり地域行所の参加呼掛	６ かかし作りや町内会盆踊り、神社祭、ふる里まつりはたくさんの人が参加誉田地区運動会は集わず	Ｂ	６ 高齢化に伴い同じことをやっているのは集客出来ず運動会は子供中心に取り組み	６ 高齢者中心にするか若い人中心にするか又は子どもを中心にするかである
７ 子ども会の活性化	７ 地域住民で子ども会に協力する	７ 誉田地区子ども会の一本化が望ましい	Ｂ	７ 小学校を借りてスポーツ大会、かかし作り等	７ 子ども会が誉田では一本化にしたい
８ 老人クラブの活性化	８ 高齢者同志で仲間作り	８ いきいきプラザや誉田公民館の活用を増す	Ｂ	８ 一丁目町内会のように２ヶ月に一度は行事有り	８ 敬老会の様な行事を若い人に力を借りてやりたい
９ 町内自治会の活性化	９ 町内自治会への参加促進地域活動	９ 積極的に加入促進はしていなかった	Ｃ	９ 中央区が作ったパンフレットを参考にパンフレット作成	９ 集合住宅（特にアパート）にどう声掛けをするか
１０ 地域活動の場の確保	１０ 地域で行う行事は学校グラウンド、公民館等	１０ 学校や公民館に事掛け町内自治会館活用	Ｂ	１０ 毎年行う行事は場所も確保 新しく高田分桜等	１０ 大人も小人も集まれる場所は限られる 空地交渉

取組項目 ※第5期計画の 20の具体的な取組番号と取組名	取組の概要	R5年度取組状況 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	R5年度 達成状況 ※S/A/B/C	R6年度計画 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	今後の課題
11 生活環境の整備	11 高齢者や障害者の生活環境整備について	11 毎年行政へ環境整備で要望事項としても挙げているが…本年度は区長と区長対活会で訴える	A	11 昨年度は市議員と共に市長を訴え、区長とも対活会を通じて動いて頂いた	11 緑区土木事務所や市道路化と共に現場を歩き先ず誉田駅前や歩道の整備をお願いしている
12 防災訓練の充実・体制	12 各町内自治会に備蓄倉庫、各家庭にも求める	12 防災訓練の緑区会場が誉田中学校だった	B	12 誉田地区連として1人責任者を決めている※避難所側の責任者(校長や教頭が余りにも早く異動しすぎる	12 避難所会場は出来るが各家庭をどうするか
13 災害ボランティア活動	13 各町内自治会長にボランティア参加と講習	13 年に1～2度か訓練実施していない	B	13 町内会担当者変わらないが会場側が…	13 会場側の引継ぎや会議を増やしたい
14 身近な防犯・安全対策	14 千葉南警察署管内防犯協会と緑区協力して毎日パトロール実施	14 千葉南警察署管内防犯パトロール隊として毎日	A	14 5年度は市防犯・県防犯協会員であったために地区外のパトロールにも参加 子供の安全見守り	14 6年度より年間スケジュールを組み各町内会が当番制で全員参加を目指す

緑区支え合いのまち推進計画の取組状況（令和５年度）及び計画（令和６年度）等調査票

団体名 第５０６地区民生委員児童委員協議会

※【達成状況の目安】Ｓ：目標を上回った。／ Ａ：概ね目標を達成した。（８～１０割）／ Ｂ：一部目標を達成した。（５～７割）／ Ｃ：大きく目標を下回った。（～４割）

取組項目 ※第５期計画の ２０の具体的な取組番号と取組名	取組の概要	Ｒ５年度取組状況 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	Ｒ５年度 達成状況 ※Ｓ/Ａ/Ｂ/Ｃ	Ｒ６年度計画 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	今後の課題
２ 子ども達の集いの場の 提供・情報提供、地域と 学校との交流	夏休みラジオ体操の実施 夏休みの始めと終わりの数日間、民生委員の主催でラジオ体操を実施する。 誉田中「地域ふれあいタイム」への参加 ＪＩＮＫＥＮの作成・寄贈 ＪＩＮＫＥＮ（犬のぬいぐるみ）を作成して、誉田小、誉田東小の卒業生に送る。	誉田団地のみ実施。 ７月２４日、２６日、２６日 ８月２１日、２２日、２３日 大人：１２人 子ども：数人参加。 誉田中「地域ふれあいタイム」 １０月２１日：印鑑作り・ＪＩＮＫＥＮ（犬のぬいぐるみ）作り １～２月、ＪＩＮＫＥＮぬいぐるみ作成。 ２月２９日：誉田小、３月６日：誉田東小の６年生に届けた。人権に関する講話をした。	Ａ	誉田団地のみ実施。 ７月２９日、３０日、３１日 ８月２６日、２７日、２８日 参加対象：大人と子ども 誉田中「地域ふれあいタイム」 １０月ごろ：印鑑作り・ＪＩＮＫＥＮ（犬のぬいぐるみ）作り １～２月、ＪＩＮＫＥＮぬいぐるみ作成。 ３月、誉田小、誉田東小の６年生に届ける。併せて、人権に関する講話をする。	子どもの参加者増加 ＪＩＮＫＥＮぬいぐるみは、学校の理解と評価を得ているので継続
３ 高齢者が集う場の開設・ 拡充・情報提供 (重点取組項目)	ふれあいカフェの開催 月１回(第３月曜日) 誉田団地自治会館。	５/１５、６/１９、７/１８、８/２１ ９/１８、１０/２、１１/２、１２/１８、 １/１５、２/１９、３/１８ 誉田団地自治会館 参加者：１２人	Ａ	４/１５、５/２０、６/３、７/１８、 ８/５、９/２、１０/７、１１/１８、 １２/２、１/６、２/３、３/３ 誉田自治会館 コロナ対策を心がけながらスタッフと協力して実施する。	
５ 子育て中の親や子ども が集う場の開設・拡充	子育てサロンの開催 子育て中の親との情報交換を図る。 月１回。 誉田町１丁目公会堂。 誉田町２丁目第一自治会館。	４/４、５/２、６/６、７/４、８/８、９/５、１０/１０、 １１/７、１２/５、１/９、２/６、３/５ 誉田町１丁目公会堂。 誉田町２丁目第一自治会館。 たかだの森ニュータウン自治会館	Ｂ	５/９、６/７、７/１１、８/８、９/１３、１０/１０、 １１/７、１２/１３、１/９、２/６、３/７ 誉田町１丁目公会堂。 誉田町２丁目第一自治会館。 たかだの森ニュータウン自治会館	子育て中の親への声かけ等の周知方法の工夫
１６ 見守り活動の推進	登下校時の見守り 独居高齢者の見守り	登校時の児童の見守り活動を実施した。 誉田団地、誉田１丁目 高齢者実態調査をもとにコロナ感染対策をしながら独居高齢者の見守り活動を継続した。	Ａ	登校時の児童の見守り活動を実施した。 誉田団地、誉田１丁目 高齢者実態調査をもとにコロナ感染対策をしながら独居高齢者の見守り活動を継続した。	地域住民、保護者の参加協力 必要性がありながらも福祉サービスの受け入れに応じない独居高齢者への対応
１８ 地域の課題解決に向けた連携	誉田あんしんネットワーク会議への参加 地域の課題解決に向け、上記会議に参加し、関係機関と情報を共有し、意見交換をしながら連携を図る。	誉田あんしんネットワーク会議 緑いきいきプラザを会場に４月、６月、８月、１０月、１２月、２月の第３金曜日に開催した会議に会長、副会長の３名が参加した。	Ａ	誉田あんしんネットワーク会議 緑いきいきプラザを会場に偶数月の第３金曜日開催の会議に会長・副会長の３名が参加する。	貴重な情報交換・共有の場として継続

緑区支え合いのまち推進計画の取組状況（令和５年度）及び計画（令和６年度）等調査票

団体名 第507地区民生委員児童委員協議会

※【達成状況の目安】 S：目標を上回った。/ A：概ね目標を達成した。(8～10割) / B：一部目標を達成した。(5～7割) / C：大きく目標を下回った。(～4割)

取組項目 ※第5期計画の 20の具体的な取組番号と取組名	取組の概要	R5年度取組状況 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	R5年度 達成状況 ※S/A/B/C	R6年度計画 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	今後の課題
3 高齢者が集う場の開設・ 拡充・情報提供 (重点取組項目)	施設での食事会開催の協力 ・社協と連携し、高齢者施設に地域住民を招いて食事会を開催する「わくわく食事会」の実地に協力する。 いきいきサロンへの協力	・「わくわく食事会」とふれあい食事サービスに代わる場の開設は進められなかった ・507 地区民児協内でいきいきサロンは7地区で参加登録者数113名、ボランティア登録者数24名で、昨年度は延べ78回開催され、延べ参加者781名、延べボランティア227名。	C A	・ふれあい食事サービス事業が亡くなり、代替りの「わくわく食事会」開設を模索する。 ・いきいきサロンの新規開設を模索する。 ・長寿会メンバーの高齢化で世話役が減少し、サロンが受け皿となって長寿会の活性化を図る。	新型コロナウイルス感染症には注意をしながら、長寿会メンバーの受け皿として、また高齢者の出掛ける機会を創出するため、いきいきサロンへの参加者を募っていく。
5 子育て中の親や子ども 集う場の開設・拡充	子育て中の親や子供が集い、仲間づくりができる場の拡充 ・ふれあい子育てサロンの拡充	・誉田町二丁目第一自治会館、たかだの森ニュータウン自治会館で7回の子育てサロンを開催し、参加者54名、ボランティア38名の参加があった。	B	・転入してきた子育て世帯への子育てサロン紹介を模索する。	子育て中の親への声かけ等周知方法を工夫して参加者を増やしていく。
16 見守り活動の推進	独居高齢者の見守り強化 ・日頃の見守り活動を継続するとともに、地域ケア会議を通じて支援を相談・共有できる仕組みを作る。 ・社協誉田地区部会の見守り活動推進委員会と連携し、見守り活動の立ち上げを町内自治会に働き掛けみまもりの体制づくりに協力する。	・日頃の見守り活動については、高齢者実態調査等で新規民生委員も顔馴染みとなってきた。 ・社協誉田地区部会の高齢者福祉委員会、町内会の見守り隊と協力し、特に独居高齢者の見守り活動を行ってきた。	B B	・見守り活動については、感染症拡大防止に留意しながら継続していきたい。(令和6年度も高齢者実態調査を実施) ・社協誉田地区部会の高齢者福祉委員会町内会の見守り隊と連携して見守りの体制づくりに協力する。	新規の民生委員も高齢者と顔馴染みになりつつあるが、地域住民同士の繋がりをいきいきサロン参加者から作っていききたい
18 地域の課題解決に向けた連携	地域ケア会議への参加 ・地域ケア会議(誉田あんしんネットワーク会議)に参加し、地域の課題解決に向けた連携を行う。	・あんしんケアセンター誉田主催で偶数月に開催されるあんしんネットワーク会議に、会長・副会長計3名が出席した。 ・「緑のおばさん」と称される特定テーマについて、高齢障害支援課などと対策会議に参加・討議した。	A A	・あんしんケアセンター誉田主催で偶数月に開催されるあんしんネットワーク会議に参加し、地域の課題解決に向け連携していく。 ・地区内の課題を発掘し、参加者の知恵を借りて早期解決に繋げたい。	地域の問題を相談出来る貴重な機会なので、今後も継続して参加していく。

緑区支え合いのまち推進計画の取組状況（令和５年度）及び計画（令和６年度）等調査票

団体名 あんしんケアセンター誉田

※【達成状況の目安】Ｓ：目標を上回った。／ Ａ：概ね目標を達成した。（８～１０割）／ Ｂ：一部目標を達成した。（５～７割）／ Ｃ：大きく目標を下回った。（～４割）

取組項目 ※第５期計画の ２０の具体的な取組番号と取組名	取組の概要	Ｒ５年度取組状況 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	Ｒ５年度 達成状況 ※Ｓ/Ａ/Ｂ/Ｃ	Ｒ６年度計画 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	今後の課題
３ 高齢者が集う場の開設・拡充・情報提供	高齢者が集う場の状況把握、情報提供	サロンやシニアリーダー体操など、集いの場の訪問、状況確認（３２か所） あんしん誉田の広報紙「あんしんケアネット」年４回の発行	Ｂ	サロンやシニアリーダー体操など、集いの場の訪問、状況確認（１６か所） あんしん誉田の広報紙「あんしんケアネット」年４回の発行	
８ 老人クラブの活性化 １７ 健康づくり支援	健康維持の支援活動	ボッチャ体験 ・４月２０日健勝会（９名） ゴムボール体操 ・５月３１日誉田２丁目自治会（６名） ・９月２０日誉田２丁目第２長寿会（１２名） 健康測定会 ・１月９日 万花台サロン（１０名） ・２月２２日 誉田２丁目自治会（７名） ・３月１３日グリーンの会（ 名）	Ｂ	介護予防運動のグッズを活用した普及活動（具体的な場所や回数は未定）	感染症予防対策を取りながらの活動になるため、集まる人数や場所の選定に配慮が必要になる。
		「ほんだ貯筋倶楽部」の開催 ・毎月第４火曜日 誉田公民館で体操や健康講座 参加登録者２７名	Ａ	「ほんだ貯筋倶楽部」の開催 ・毎月第４火曜日 誉田公民館や緑いきいきプラザで体操や健康講座 参加登録者２７名	誉田公民館が使えなくなる期間、緑いきいきプラザを利用するが、バスの便数が少なく、プラザの利用時間帯とバスの時刻が合わず、参加したくてもできない人がいる。
１５ 助け合い活動の推進・外出困難者への支援	移動販売等の情報提供、支援	買い物困難者への情報提供、相談	Ｂ	買い物困難者への情報提供、相談	移動販売について規模を縮小した会社もあれば新しく始める店舗もある。情報を
４ 障害者（児）その家族が集う場の開設・拡充・情報提供 １８ 地域の課題解決に向けた連携	地域ケア会議の開催 関係機関との情報共有	あんしんネットワーク会議の開催（緑いきいきプラザ） ・４月２１日・６月１６日・８月１８日・１０月２０日・１２月１５日・２月１６日 自立促進ケア会議の参加（７月１４日、１０月１３日） 出張相談会（４月２７日、５月２３日、９月１０日、１２月１４日）	Ａ	あんしんネットワーク会議の開催（緑いきいきプラザ 年６回） 自立促進ケア会議の参加（年２回） 出張相談会（年３回）	公民館が使えないため、会場がない。地域の自治会館などを利用させていただけないか相談をしていきたい。
		地域自立支援協議会緑区地域部会（障害者基幹）の参加 千葉県精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進連絡会議の参加	Ａ	地域自立支援協議会緑区地域部会（障害者基幹）の参加（年２回） 千葉県精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進連絡会議（年１２回）と講演会（年１回）への参加	障害者（特に精神障害者）への理解を深めていきたい。

取組項目 ※第5期計画の 20の具体的な取組番号と取組名	取組の概要	R5年度取組状況 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	R5年度 達成状況 ※S/A/B/C	R6年度計画 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	今後の課題
16 見守り活動の推進 19 自宅療養中の家族が いる家庭への支援	認知症について正しい知識を持ち、 認知症の人や家族を見守るサポ ーターの育成	ジュニア認知症サポーター養成講座 ・12月5日 誉田中学校 1年生 認知症サポーター養成講座 ・12月9日 506地区民生委員(15 人) ・3月9日 一般市民(緑いきいきプラ ザ)(12人)	A	ジュニア認知症サポーター養成講座 ・12月 誉田中学校 1年生 認知症サポーター養成講座(年2回)	認知症サポーター養成講座の開催を呼び 掛けて、より多くの人に参加していただ きたい。
20 ボランティアの確保	ボランティアの活動の場作りを行う。	認知症サポーターステップアップ講座 ・8月25日(千葉市役所) ・9月25日(中央区きぼーる) オレンジカフェの再開 ・7月より 毎月第1, 3, 5土曜日 (平均参加者数 6人)	A	オレンジカフェの継続(毎月第1・3・ 5土曜日)	参加してくださる住民を増やしたい。 ボランティアも増やして、より多様な内 容で時間を過ごせるようにしていきたい。

緑区支え合いのまち推進計画の取組状況（令和５年度）及び計画（令和６年度）等調査票

団体名 社会福祉法人常盤会

※【達成状況の目安】Ｓ：目標を上回った。／ Ａ：概ね目標を達成した。（８～１０割）／ Ｂ：一部目標を達成した。（５～７割）／ Ｃ：大きく目標を下回った。（～４割）

取組項目 ※第５期計画の ２０の具体的な取組番号と取組名	取組の概要	Ｒ５年度取組状況 （いつ、どこで、何を、回数、人数 等）	Ｒ５年度 達成状況 ※Ｓ/Ａ/Ｂ/Ｃ	Ｒ６年度計画 （いつ、どこで、何を、回数、人数 等）	今後の課題
６ 地域と学校との交流	ア 学校と施設の交流小委員会事業 イ 土気公民館で職場体験中の中学生とのオンライン交流	ア 小委員会での事業はコロナ情勢により計画されず。 イ Ｒ５年６月２２日に、土気公民館と生涯学習センターとときわ園をつなぎ、公民館とセンターに職場体験中の中学生５名（大椎中３名、高浜中２名）とデイサービスの利用者とのオンライン交流会を開催。中学生の演奏にのせて童謡を歌ったり、普段デイサービスで繰り返し行っている脳トレゲームを中学生がすぐ覚えてしまうことに驚かされたり、双方楽しい時間を過ごせた様子である。	Ｂ	２ 子ども達の集いの場の提供・情報提供、地域と学校との交流 ア 小委員会での計画は今後？ イ Ｒ６年６月２０日 土気公民館とデイサービスをオンラインでつなぎ、公民館に職場体験中の中学生３名（大椎中学生徒）とデイサービスの利用者との交流会を開催。中学生から職業観や人生観を尋ねられて、ご参加の高齢者には自身の過去を見つめなおす良い機会となった様子であった。生徒さん方は脳トレ体操も素早く覚え、ご高齢の方々の刺激となったことも印象的である。 ウ Ｒ６年６月７日 コロナ中に交流を中断していた鏡戸幼稚園の年中さんが、デイサービスを訪問してくれた。全員でマスクを着用、入館時もアルコールで手指消毒を完全実施し、見事なお遊戯を見せてくれ、大人たちをうならせて帰っていた。	
７ 地域の行事への積極的参加の呼びかけ	ア わくわく食事会の開催 イ 土気地区部会ふれあい食事会への管理栄養士派遣	ア コロナからの態勢立て直しのためか計画されず。 イ コロナからの態勢立て直しのためか計画されず。	Ｃ	６ 地域の行事への積極的参加の呼びかけ、文化の伝承 ア、イ もしお声がかかれば積極的に協力させていただきたい。	

取組項目 ※第5期計画の 20の具体的な取組番号と取組名	取組の概要	R5年度取組状況 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	R5年度 達成状況 ※S/A/B/C	R6年度計画 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	今後の課題
19 緊急時の食料、医薬品等の調達、供給体制づくり	BCPの仕組みづくり	当会において導入しているオンラインBCP進捗管理システムであるBossシステムに関し、前年度に引き続き東大生産技術研究所との連携を継続した。 東大大学院工学系研究科より、「高齢者福祉施設の防災対策に関するシンポジウム」での登壇依頼があり、9月下旬に講演。 また、Bossシステムの導入に取り組んだことを、9月13～14日に開催される全国老人福祉施設協議会関東ブロック研究大会において事例発表を行う。	A	引き続き東大生産技術研究所との連携を継続する。地震時のBCPに加え、出水時のBCPやパンデミック時のBCPなど、応用的に作成していきたい。	
		Ex) (公財)介護労働安定センター千葉支部の依頼に基づき、介護過程の実践(R5/9/17)、認知症介護の実践(R6/2/19)の2つの分野で講師を派遣した。 千葉労働局の依頼を受けて、障害者雇用促進セミナー(R6/3/11)にて登壇した。		18 地域の課題解決に向けた連携 依頼に応じて当会に勤務する専門職を講師として派遣する。 頼まれたら断らない。	